平成 25 年度

教育改善向上(FD)年報

東 京 未 来 大 学

平成２５年度　FD 紀要　目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

１．平成２５年度教育改善向上（FD）活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２．平成２５年度 FD 活動記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３．各グループの活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
（１）授業連携グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
（２）授業改善グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
（３）授業研修グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

４．全体会議報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

５．授業評価アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
資料１：授業アンケート実施のお願い・実施要領（平成 25 年度春学期）
資料２：授業アンケート実施のお願い・実施要領（平成 25 年度秋学期）
資料３：授業に関するアンケート（マークシート）
資料４：授業に関するアンケート（自由記述）

はじめに

東京未来大学教育改善向上委員会
委員長　鈴木光男

開学以来 7 年目を迎えた平成 25 年度は、本学にとって一つの大きな節目となる第三者による外部評価が実施された。具体的には、日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価であるが、これに向けて様々な準備･整理が行われる中、改めて本委員会の果たしてきた役割の大きさを自覚した次第である。

開学とほぼ時を同じくして叫ばれた大学での FD 活動が必須となる中、本学では教職員による「授業参観・交流」と学生による「授業評価」が大きな柱となって本学ならではの FD 活動が進められてきた。ともすれば硬直化した大学が多いと指摘される中、本学は建学当初から「大学らしからぬ大学」を指向し、教職員、そして学生が一体となって FD から SD、そして PD へと前進してきたと自負している。日常の地道な授業づくり、大学づくりそのものが、教育力の向上と、大学としての質的転換を果たす原動力となっていた。

とは言え、本報告書に限っては第三者評価への準備･整理作業に押される形で、その編集作業は大変な滞りを見せることとなってしまった。この点については、教育改善向上（FD）委員会の長として反省すべき点である。紙面を借りてお詫び申し上げたい。そのような事情を抱え、本報告書では 25 年度・26 年度 2 年度分をまとめて刊行させていただくに至った。

この 25・26 年度 2 年間の FD 活動を具体的に振り返れば、授業研究の導入や学生を交えた FD 研修の実施、ベストティーチャーの選出など、これまで培ってきた本学ならではの FD 活動に新たな一歩を記すものであった。また、FD 活動と直接の関係はないものの本学独自の行事「三幸フェスティバル」において、その企画･運営方法を見直し、その全てを学生主体にすることも特筆すべきことである。FD 活動の延長線上で、教職員と学生とが一体となって、「面倒見のいい大学」としての本学のありように「学生の主体性を育む」視点が加わったのである。これは、本学において大きな転換と位置づけられるものである。

平成 24 年 8 月 28 日に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」にあるとおり、大学改革は待ったなしであり、これまで以上に学生の主体性が求められている。アクティブラーニングの研究を平成 24 年度より全学的にスタートさせたことも無縁ではない。今後は、FD としてだけではなく全学的な取り組みとして、一層のアクティブラーニング研究と実践、そして大学教育全体の質的な転換に貢献できる FD 活動を求めていきたい。それはまさに、本学の初代学長であり、初代教育改善向上（FD）委員会委員長であった多

湖輝現名誉学長が、「学生が真に主役になれる大学の創造」を目指していたことと方向性は何も変わらないものである。その一端を、本報告書において報告するものである。

１．平成 25 年度教育改善向上（FD）活動の概要

平成 25 年度は、本学開学以来初となる大学機関別認証評価が日本高等教育評価機構により実施され、大学評価基準に適合しているとの認定評価を得た。この一連の評価に関わって、教育改善向上（以下、FD）委員会の取り組みは非常に評価された。年度ごとの授業評価改善や研修などの FD 活動全般、とりわけ学士力「汎用的スキル」については各評価委員から高い関心と評価を得ることができた。これまでに本学 FD 活動を中心になって進められた故坂元昂前学長をはじめ先輩諸氏のご労苦に改めて感謝申し上げる次第である。

本年度は、こうした大学機関別評価に向けて一層の FD 活動の拡充を図るべく、昨年度までの流れを踏まえて授業改善グループ（代表：高橋一公先生）、授業連携グループ（代表：野田敦史先生）、授業研修グループ（代表：真家英俊先生）の 3 グループによる活動を推進した。

授業改善グループは、従来通り春･秋学期末それぞれで実施する学生による授業評価アンケートの実施、それと付随して実施する年 2 回の中間授業アンケートの実施、それを受けた教員による授業改善評価書の取りまとめ、そして年 2 回の授業交流（6 月･11 月）の実施を中心となって担当した。また本年度は、全学的にアクティブラーニングによる授業改善の要求も高まりを見せたため、先述の活動に加え、授業研究という新たな取り組みを始めるまでに至った。具体的には、授業評価アンケートによる授業評価が高かった教員 3 名が授業を公開し（11 月末）、その授業を参観した教職員によって授業者を交えた研究･協議を実施するというものであった（12 月）。このような授業研究は、全国の初等･中等教育諸学校において長らく実施されてきているものではあるが、大学での実施は多くはなく、大変意義ある第一歩を記したものと評価されよう。

次に授業連携グループは、昨年に引き続き各授業が目標とする学士力のシラバスへの明記の推進を行った。さらに、かねてより懸案となっていた専門的指導力など汎用的スキルだけではない新たな学士力の策定に向けて、研修会を実施するなどの試みを行った。

授業研修グループは、全体会議における研修（3 月と 9 月）を担い、全学教職員を対象としたアクティブラーニング研修を企画・運営した。また、それとは別に ICT 関連の研修も実施し、全教職員から非常に好評を集めた。また、学生 FD 委員会の立ち上げも視野に入れて、学生を交えた研修も試みられるなど、非常に充実した研修が進められた。

以上、各グループの概略について述べてきたが、これまでの FD 委員会活動をより一層拡充･発展させた一年であった。まだまだ全学的な PDCA サイクルの構築には至らず、本委員会が担うべき責任は大きい。また、本学ならではのアクティブラーニングの取り組みも十分と

は言えず、今後の課題として挙げられる。学生のためのよりよい授業、そして大学を目指して、引き続き新たな教育改善向上を行っていきたい。

2. 平成 25 年度 FD 活動記録

4 月	第 1 回教育改善向上（FD）委員会 ① 本年度の FD 活動について ・自己点検評価報告書内記述の確認　・FD 委員会組織の確認 ② 24 年度報告書発行 ③ 「授業評価書」授業評価アンケート集計結果 ④ 各グループの現状報告と今後の活動･課題 ⑤ 6 月実施授業交流 ⑥ 卒業生アンケート結果分析 ⑦ AL に関するアンケート結果 ⑧ その他 ◆第 1 回 FD 委員会研修会：3 月 26 日(火)全体会議にて 内容：アクティブラーニングを取り入れた授業改善についてグループ協議
5 月	第 2 回教育改善向上（FD）委員会 ① 懸案事項（卒業生アンケート・授業評価アンケートとその所見・AL の推進等） ② 授業評価中間アンケート ③ 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）の現状報告と今後の課題の共有 ④ 大学 FD 勉強会 2013 の報告 ⑤ 秋学期授業研究の実施提案 ⑥ その他 ◆中間授業評価アンケート
6 月	第 3 回教育改善向上（FD）委員会 ① 卒業生アンケート ② ベストティーチャー表彰 ③ 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）からの現状報告と今後の課題の共有 ④ 中間授業評価アンケート ⑤ 秋学期授業研究の具体 ⑥ その他 ◆春学期授業参観実施：6 月 3 日（月）～6 月 21 日（金）
7 月	第 4 回教育改善向上（FD）委員会

	① 授業参観シート集約 ② 昨年度の報告書進捗状況 ③ 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）からの現状報告 ④ 全体会議での AL 研修 ⑤ その他 ◆春学期末授業評価アンケート ◆第 2 回 FD 委員会研修会：7 月 3 日（水） 内容：情報処理センター・丸尾氏による電子黒板等の利活用（A402 教室の ICT 機器使用説明）
9 月	◆第 3 回 FD 委員会研修会：9 月 12 日（木）全体会議にて 内容：講演「FD とアクティブラーニング展開の課題－グループワーク実践の経験から」（慶應義塾大学教授 井下理氏）
10 月	第 5 回教育改善向上（FD）委員会 ① 第三者評価の概要と FD に関する指摘事項・課題 ② 全体会議 FD 研修会の振り返り ③ 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）からの現状報告 ④ 授業研究の企画 ⑤ 春学期授業評価アンケートの取りまとめ ⑥ 学士力と授業連携 ⑦ 今年度の研究内容と方法 ⑧ その他 ◆第 4 回 FD 委員会研修会：10 月 30 日（水） 内容：Google フォーム機能によるアンケートの作成
11 月	第 6 回教育向上改善（FD）委員会 ① 大学戦略会議より（通信課程の授業評価アンケート・26 年度全体会議） ② 授業評価アンケート結果過去 3 回の振り返り ③ 12 月の AL セミナー参加 ④ 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）からの現状報告 ⑤ スタートアップセミナーにおける AL の扱い等について ⑥ 学士力「汎用的スキル」「専門的指導力」の扱いと今後の見通し ⑦ その他 ◆秋学期授業参観 11 月 18 日（月）～11 月 29 日（金） ◆中間授業アンケート実施 ◆授業研究の実施 11 月 26 日（火）5 限　中川佳子教授　「乳幼児心理学（講義）」 11 月 28 日（木）4 限　出口保之教授　「少年非行の心理」 11 月 29 日（金）1 限　郭　潔蓉教授　「経営組織論」
12 月	◆第 5 回 FD 委員会研修会：12 月 11 日（水）12：50～13：30 内容：授業研究として公開された 3 つの授業についてグループ別研究･協議

1 月	第 7 回教育向上改善（FD）委員会： ① 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）からの現状報告と事後課題の共有 ② 全体会議の研修内容について ③ スタートアップセミナーの AL に関する指導内容について ④ その他 ◆秋学期末授業評価アンケート
2 月	第 8 回教育向上改善（FD）委員会： ① 大学教育再生加速プログラム ② 各グループ（授業改善・授業連携・研修・研究）からの現状報告と事後課題の共有 ③ 全体会議の研修内容 ④ 学士力「汎用的スキル」の見直し ⑤ 来年度 FD 活動への課題 ⑥ その他
3 月	◆全体会議での FD 研修

3.各グループの活動報告

（1）　授業連携グループ

【要約】

本年度は、「科目間の連携強化の検討」および「プロジェクト（行事）と授業との連携」を将来的検討テーマに掲げ、学士力（汎用的スキル）との関連付けの可能性の検討を実施した。この検討過程の中で学士力（汎用的スキル）の表記上の指摘が各委員より出され、各項目の表記上の内容の一部改定が行われた。同時に、科目間連携強化には、学士力（汎用的スキル）のみならず学士力の「専門的スキル」の作成が必要不可欠であることの委員の一致した見解として示され、翌年度の「専門的スキル」作成実現に向けた準備的期間と位置づけ検討を行った。また、これまでの生活委員会および本委員会の授業連携グループの懸案事項としてあげられていた入学前教育および初年時教育の連動性と充実については、本委員会の授業連携グループの委員を実施担当職員と兼務させ、その実現に貢献した。

1）　はじめに

昨年度、授業連携の取り組みで「学士力を意識した授業連携の取り組み」が示された。結果、「カレッジ・アンド・スキル（以下；CS)」と「保育実習（事前事後指導を含む)」を主要な授業連携のモデルとした場合、「CS」の一部の学習内容は、「保育実習」へ有意な効果を及ぼしているという科目間での連携に効果を示していることが確認された。同時に授業連携の取り組みとして、一昨年度より各教員に対して、シラバス作成の際に担当科目が学士力（汎用的スキル）の項目内容の何に合致しているのかを、シラバス上に表記させてきた。これらの取り組みを踏まえ、今年度、各委員に今後の授業連携の方向性を意見聴取した結果、科目間連携については「科目番号制（ナンバリング）の関与・協力を視野に入れた更なる検討」を、学士力との関係においては「基礎教養科目と専門科目の異なりによる学士力の位置づけ再検討」を今年度、実施した。これら検討過程および成果として、従前の学士力（汎用的スキル）の各項目の表記上の一部改訂と学士力（汎用的スキル）と並行して学士力（専門的スキル）の作成作業に向けた事前調査を実施するに至った。

2）　学士力（汎用的スキル）各項目の一部改訂

学士力（汎用的スキル）は、平成 21 年度、本委員会にて素案が作成され、平成 22 年度

からは、こども心理学部にて科目と学生力の連動性をより一層、学生・教員に意識付けられるよう各科目のシラバスに学士力の項目に該当する番号を明記する方法がとられてきた。

一方、本学では 24 年度より、モチベーション行動科学部が新設され２学部体制となったことから、この学士力（汎用的スキル）を全学的に位置付けることを前提に、モチベーション行動科学部には、学士力活用の確認・検討を実施してもらった。

これらの実施・検討経過の中で委員から、従前の学士力（汎用的スキル）各項目における文章上の不明瞭さが指摘され、最終的に以下の学士力（汎用的スキル）に改訂するに至った。

東京未来大学　学士力　汎用的スキル

社会と関わって活きる力	A	コミュニケーションの力、協働する力　（社会性）	1	自分の意見をわかりやすく伝えることができる。
			2	相手の意見を丁寧に聞くことができる。
			3	多様なメディアを主体的に利用し、他者と連携できる。
			4	他者と協調して行動できる。
			5	他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。
			6	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。
	B	社会の一員として責任ある行動をする力（市民性）	7	自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。
			8	よりよい社会を実現するために、自らの資質を活かして積極的に社会に関与できる。
	C	自分たちの文化・異文化を理解し認める力（受容性）	9	文化・社会と自然に関する知識を理解できる。
			10	意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。
自分自身が身につけるべき習慣	D	自己を統べる力（倫理観）	11	自らを律して行動できる。
			12	状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。
	E	常に学び、向上を続ける態度（生涯学習力）	13	卒業後も自律・自立して学習できる。
			14	目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。
	F	情報収集一分析一解釈一表現・発信する力　（課題を解決する力）	15	問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。
			16	獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。
			17	情報を構造化し、分析・評価・統合し、倫理的に活用できる。
	G	創造し表現する力（創造力）	18	自然や社会的事象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。
			19	情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。
			20	既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。

3）　学士力（専門的スキル）作成に向けた事前調査

学士力（汎用的スキル）の見直し作業（前述）の中で、学士力（汎用的スキル）各項目の表記上の改定を行う一方、「基礎教養科目と専門科目との連携」さらには「モチベーション行動科学部での学士力に係る検討」の中で、学士力創設時に構想として存在していた「学士力（専門的スキル）」を創設する必要性があがってきた。そこで、授業連携グループでは、以下の日程・内容で学士力（専門的スキル）作成に向け、開学時、学士力（汎用的スキル）に携わった委員に聴取する事前調査および検討会議を実施した。

【事前調査および検討会議　実績】

◆事前調査

日　時：平成 26 年 1 月 22 日　17 時

場　所：419 研究室

説明者：近藤副学長

聴取者：授業連携グループ担当 FD 委員（藤本委員、三村委員、森委員、野田委員）

内　容：開学時の学士力構想について　―専門的スキルとは―

◆検討会議

日　時：平成 26 年 2 月 26 日　16 時

場　所：419 研究室

参加者：授業連携グループ担当 FD 委員（藤本委員、三村委員、森委員、野田委員）

内　容：専門的スキル作成に向けて

(2)授業改善グループ

【要約】

授業改善グループでは、各教員が教育内容・方法を改善し、向上させることを目標とした FD 活動に取り組んだ。そのひとつは春学期・秋学期に行われた授業相互参観である。授業相互参観では参観者が授業担当者へ感想シートを送った。また秋学期においては授業研究も実施され、3 名の教員の授業を参観、後日授業毎に分かれて意見交換を行った。さらに、両学期において「授業評価改善アンケート」を行い、学生の授業に対する要望や改善点などを聴取する機会を設け授業改善への風土を定着させた。これらの活動を行った結果、本学独自のアクティブラーニングの必要性、「授業評価改善アンケート」項目の再検討など、授業改善に向けた新たな検討課題が挙げられた。次年度はこれらの検討課題に加え、非常勤講師担当科目における授業評価アンケートの実施、授業研究の定着などの取り組みが予定されている。

1)はじめに

授業改善グループでは、各教員が授業内容・方法を改善し、向上させることを目標としたＦＤ活動の取り組みとして授業相互参観を進めている。今年度の授業参観の目的は教員が相互に参観しあうことで講義間の連携を図ること、授業改善における課題を共有することとした。また授業研究を行うことでより授業改善・向上の次の段階へ進めていくことも目的に加えている。授業相互参観は春学期 3 週間、秋学期 2 週間を設定し、秋学期においてはこの期間に 3 名の教員に授業研究を依頼し、各教員にこのいずれかの授業を参観することを努力義務とした。

授業評価アンケートについては前年度同様、学期途中において授業に対する改善点および授業環境に対する要望など自由記述を用いて行うとともに、学期末には授業満足度をはじめとする 21 項目からなる授業評価アンケートを実施した。学期末の授業評価アンケートについては各教員がアンケート集計結果をもとに授業評価アンケートに対する所見を提出することを求めた。今年度春学期は専任教員を中心に行い、非常勤講師に対しては提出を任意とした。秋学期については専任・非常勤にかかわらず授業評価アンケートに対する所見の提出を求める予定である。

2）授業相互参観

①目的

各教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的取り組みとして、授業相互参観の風土を根付かせ、教員が相互に授業を見学しあうことで、授業間の連携をはかり授業改善における課題を共有することを目的とした。

②実施期間

平成 25 年 6 月 3 日（月）～平成 25 年 6 月 21 日（金）

平成 25 年 11 月 18 日（月）～平成 25 年 11 月 29 日（金）

③手順および内容

授業により、参観の可否が生じることを配慮して、以下の 3 つの授業参観の内容を提示した。また参観者は授業者に対し感想を述べることにしたが、直接ではなく「授業参観感想シート」を用いて感想を述べた人物が特定できないよう配慮を行った。

・各教員は、参観期間の授業内容に応じて、参観の可否を連絡する。また事前に参観ンお連絡を受けたい場合は、その旨連絡する。

・各教員は、参観後所定期日までに事前に配布された授業参観感想シートに記入し、FD 委員会委員長鈴木（光）、委員高橋・森までデータ（メール添付）で提出する。

・提出されたデータにおける個人情報は、FD 委員会委員長および FD 委員会授業改善グループのみ扱えるものとする。

各参観者から提出された感想シートは記述者および個人の特定につながる情報を削除し、学部ごとに取りまとめフィードバックを行った。

④参観シートのまとめ

各参観者からの参観シートでは、「参考になったこと、ご自分の授業で生かしたいと思ったことなどをご記入ください。また、その理由も教えてください。」「お気づきの点やご提案、ご感想などをご記入ください。」と特に特定の事象にこだわらず自由に記述してもらう形式で感想を求めた。これをこども心理学部およびモチベーション行動科学部ごとに整理を行った。

モチベーション行動科学部については開設 2 年目ということもあり科目数が少ないという問題点はあったが、こども心理学部同様、参観教員からは多くの感想・意見等が寄せられている。これらは参観者の多様な視点を示すものであり、授業改善の重要な資料として活用することが期待される。今年度は秋学期において授業研究が行われたため授業参観については春学期の感想意見を中心に代表的なものを次に示す。

モチベーション行動科学部（所属教員の授業に対して）

参考になったこと、ご自分の授業で生かしたいと思ったことなどをご記入ください。また、その理由も教えてください。	お気づきの点やご提案、ご感想などをご記入ください。
すべてがエビデンスベースドな講義となっており非常にわかりやすかった。 学生に作業をさせ、それに基づいて講義を展開することにより、学生の参加意識が高まっていた。 パワーポイントが非常に魅力的で、わかりやすい。和やかなムードの中で講義進展し、自分の講義にはない余裕を感じられた。	非常に和やかに講義が進行していた。先生のお人柄がそのまま講義に反映されていて、知らず知らずのうちに引き込まれた。また、エビデンスに基づく講義は非常に説得力があり、それを紹介するパワーポイントも時間をかけて作られていることがうかがい知れるなど、とても参考になった。
アニメを題材に〇〇を学ぶ内容でした。クライマックスのシーンに拍手をしている学生もいました。今の学生の興味関心を喚起するためには私も切り口を考えなくてはいけないと反省しました。1968～1973 年の時代でしたので、私の学生時代と重なります。私の見聞きしたこと、体験したことがもう「歴史」として語られるようになっていました。授業で取り上げられた学生運動も最盛期でしたが、当時は「明治百年」といって騒いでいる人たちもいて、丁髷を落としてまだ 100 年しかたっていないのかと矛盾の多い社会になんとなく納得もできたものでした。	座席がその日に指定されたにもかかわらずスムーズに着席し、授業開始のチャイムから約 5 分で出席確認も終わり、本題に入りました。学生が私語なしで受講しているのに驚きました。この雰囲気が定着するのに、4 月当初ご苦労はなかったでしょうか。携帯・スマホで出席入力をなさっていました。こういう方法を全学で採用することをしてもいい時期なのではと思いました。
学生とのコミュニケーションの取り方がとても参考になりました。自然体で学生の中に入っていき、学生の興味を上手に授業の内容に結び付けていたと思います。先生の雑学（？）が光っていました。 パワーポイントが要点を大きくはっきり書いてくれているので、とても見やすかったです。途中の 5 分間ブレイクも参考になりました。	素朴な感想として、授業規模が、大人数となった場合、どのように先生の持ち味を発揮しながら、集団をまとめていくのかぜひ一度拝見してみたいものです。
板書と映像を取り入れていて、学生の理解の速度に合わせて授業が進められていた。学生への質問や学生の好奇心をくすぐるような働きかけなどがあり、双方向の授業展開であった。全員に質問するなどの配慮がみられた。学生の答えが間違っていても、モチベーションを下げることなく、興味を持たせるようにしていた。学ぶことの楽しさが伝わってきた。わたくしの授業でも、学ぶことが楽しいと思わせるように心がけようと思った。	
卑近な話題で学生の興味関心を惹起させようとしており、またところどころ「笑い」もあって、見習いたいと思った。 またパワーポイントの量が少なく、要点を絞ったものにしているなと思い、参考にしようと思った。	学生の私語が多いことは気になった。静謐な環境を望む学生もいるのではないだろうか。 また双方向性も弱いように感じた。自分が担当している授業もそうだが、大人数での双方向的授業のあり方というのは難しさがあるのだろうという気持を新たにした。

先生の話の内容そのものを最大限に活かした話し方。最初にキャッチーな話題で学生をひきつけつつ、学生の記憶に残す最終兵器とも言える情報を隠し持っている。 教室前方に着席している学生達にとっては大変魅力的な授業構成であると感じた。 大教室の授業ならではの AL の導入。適宜学生たちに問いかけをし、挙手をさせ、学生たちが飽きないような仕組みが作られていた。 毎回のポートフォリオに最も登場する本授業を参観し、その人気の秘密が良く分かった。一方、それでもなお一部の学生たちの授業態度の悪さには愕然とした。	学生の二分化。先生とも実際に話をしたが、単純に言うと、「教室前方に座る学生」と「教室後方に座る学生」。もう少し具体的に言うと、明らかにモチベの学生とこども心理の学生では授業態度が大きく異なる印象を受けた。後方の学生は私語が大変多く、体の向きさえ前を向いていない、突っ伏せて寝ている、等と授業態度が非常に悪い。対策として単純に考えられるのは、座席指定。これで私語の削減には一定の効果を発揮するかもしれないが、根本的な解決策にはならない。 先生であるからこそ可能な対策として、本日の授業のテーマであったキャリアを築く前提として、大学で「学ぶ意義」や「最低限のルールやマナー」を身につけ、「やるべきときはやる」ことの必要性について話をしてあげたりするというのはいかがだろうか。もちろん授業の進行とのバランス次第であるが、授業を静かに受ける等という当たり前のことさえ当たり前になっていない彼らにとって、そのような時間を取ることも必要なのかもしれないと感じた。
板書内容をパワーポイントで表示をしたり、動画を活用した実例を例示するなど、映像を大変上手く活用されていた点がとても参考になりました。	少人数の授業でしたが、アクティブに意見交換されていた点がとても良かったと思います。要所々々で学生たちに的確な質問を投げかけ、アクティブラーニングを実践されていた点も学生たちにとって学びが大きいと感じました。
授業の教材として用いていたビデオ（テレビで放送されたドラマ）が、おもしろかった（今回の授業は、映像資料を通じて、意見をまとめる内容でした）。後期、映像資料（アニメなど）を用いた授業も考えているため、映像資料の使い方について、考えさせられた。また、映像資料は長いものもあるため、上手な時間の使い方を考える必要があるとも感じた。	
あまりに受講者が少なすぎる。実業家を招聘する様々な授業は合同で開催するなどして、効率化する必要がある。今秋の対策が間に合えば早急に、それが無理なら、次年度に向けて、検討会を即時に結成すべき！	こうした授業の価値を理解している学生はどれだけいるだろうか？敢えて仰々しく開催して関心を高める方法を検討してよいだろう。
授業最初に、「本日の予定」というスライドが出され、学生が、本講義の、15 回の講義の中での位置づけと目標を、把握できるようにしていらっしゃいました。学生の中に、講義で学んだことのネットワークが構築されやすくなる工夫で、とてもよいと思いました。授業内容も、学生の興味を引くものが随所に入れられていて、私自身も楽しく学ぶことができました。また、そうした面白い講義を聞くだけでなく、教えられたことをもとに考えさせる活動が取り入れられており、学生の理解深化が促されていました。さらに、考えさせる活動の後には、考えた内容の発表があり、大教室であるにもかかわらず、どの学生もマイクを使って堂々と発表する姿が見られ、感動しました。最後に、学生の受講態度に対して注意が行き届いている点もよかったと思います。受講態度がどうあるべきか、破った場合にはどうなるか（座席指定になるなど）といった約束事がしっかり伝えられているとともに、破りそうになった時に、即座に約束事を思い返させることが徹底されており、私語等がとても少なかったと思います。	どの学生も発表を嫌がるそぶりを見せないこと、またメモを取る学生が多いことなどから、受講態度をしっかり指導されていると思いました。それでも、大教室でしたので、やはり最後列に座っている学生達には私語が見られることもあったのですが、そうした学生が、先生の「余談」……というか学生の興味を引くような話には、真っ先に反応しており、最後列に座っているから、また、私語をしているから、聞いていないというわけではないんだなと新鮮でした。

１）グループに分かれての活動だったので、グループで 1 つの課題に取り組むのかと思いましたが、それぞれが検討する課題について「互いにアドバイスするためのグループ」というグループ活動の方法は面白いと思いました。 （理由）自分自身の課題に取り組むとともに、他の人の課題について考えることが自分の課題のヒントになっているようでした。中には、自分の課題をそっちのけで他人のことばかり考え、自分の課題だけに取り組み他人の課題には注意を向けていない学生もいましたが、先生が他の学生にアドバイスしている内容が耳に入ることが学びになっている気がします。 １つの課題に取り組む場合は「協同」に近く、フリーライダーはどうしても出てきてしまいます。ですが、今回拝見したグループ活動は、目標は同じで課題への取り組みは個々人が異なり、それをグループで取り組んでいるので「協働」であると感じました。自分の授業では同じ課題に取り組ませることが多かったので、ぜひ活用してみたいと思います。 ２）学生が横道にそれた時に自分の課題に戻れるような、課題に関連させた内容での介入の仕方をされていた。 （理由）「はい課題に戻って」の言葉だけでは学生の興味の矛先を修正できないので、ぜひ真似をしたいと思います。	授業を参観させていただいた時にも先生もおっしゃっていましたが、授業の内容的には 2 年生後期以降に設定したほうがよさそうです。 開講年度、他の授業との関連性、不足している授業科目など、完成年度後に向けて、学部全体で検討する必要があると思いました。
もっとも印象的だったのは語り口でした。沈着だが温かみのある語り口は、落ち着いた授業の雰囲気づくりに寄与しているという印象を持ちました。また、プリントを必要に応じて配るやり方について、私は最初に全部配ってしまうのですが、ちょっとしたアクセントになるかなと思いました。	数名の学生は眠気との戦いになっていたので、そこをどう授業に向き合わせるかという課題があるように思いました。とはいえ、これはほとんどの授業での課題でしょうが。
概念地図の説明や有効性について、前時に学生が記述した「科学者」に関する概念地図を実際に取り扱う手法が参考になりました．これにより、第三者が描いた地図よりも、身近な仲間が描いた地図の方が、学生の興味関心が向上するだけではなく、親近感が高まることが本授業を拝聴し、実感できました．本当にありがとうございました．	自らプリントを他者に配付して回るなど積極的な姿勢が随所に見られ、良い雰囲気に思いました．一方、黒板に解答を記述するときや、自分の考えをプリントなどに記述する際、誤った漢字を書く学生が散見されたため、基礎学力を補う必要性について、改めて理解することができました．
最初に発音に関するクイズを行い、前回までの復習を含め、発音の違いについて詳しく説明をし、学生たちが理解しているのを確認しながら、進めていた。 次に文法の説明では、以前学習した単元の復習も取り入れており、総合的に学びが進むように工夫がされていた。また、学生たちに答えを考えさせるなど、授業への積極的な参加の工夫がされており、学生たち楽しく、授業に参加していた。 言語では発音の練習が大切であり、CD や DVD を使用し、発音の練習にも工夫が見られた。	学生の学ぶ意欲が低いのが気になった。積極的に参加している学生とそうでない学生の差がはっきりとしていた。
私が参観した日の授業は、実例を取り上げて話をしていた。実例を取り上げて話をするというのは、なかなか難しいところもあるが、学生が興味深く聞いているようだったので、良いと思った。 配布資料がしっかりと作ってあって、学生の理解の助けになる良い資料だと思った。	基本的に学生が静かで、しっかりと話を聞いていた。 自分の授業でも学生を静かにさせるのに苦労しているところがあるので、工夫していきたいと思った。
先生が説明されている時は、静かに真剣に学生が受講していた点はとても良い環境設定をされていると感じました。 歴史上の人物の写真をスライドに写し、説明をされていましたが、それぞれの人物の補足説明が詳しく学生の興味を惹きつけているのが分かりました。	学生の方を常に見て、目線を合わせて話をされていることが参考になりました。 教室の座席の後部で何名かが眠っている学生がいたので、もう少し学生への直接の問いかけや考えさせて書かせるなどという作業が途中にあると活性化するのではないかと感じました。
映画を題材に、文化等について考えさせる時間と、文法等についての講義、まとめの記述、などと異なる活動をうまく組合わせていた。最後の記述の課題は全員が(一人も寝ないで)熱心に取り組んでいた。	質疑応答なども議論があればさらに活発な授業になると思われた。寝ている学生に注意をした方が良い。

環境設定の大切さや、授業力の基礎力が重要だと改めて感じ、自分自身を振り返る良い機会となっています。	

こども心理学部（所属教員の授業に対して）

授業の導入部分において、学生の身近で関心のある内容を質問・考えさせる・ヒアリングを取り入れられていた。その導入部分から大教室に関わらず、一斉に静かになる。 配布資料（スライド）以外の補足の内容が充実しているので、学生たちが静かにメモをとっている様子。大事なことを何度も復唱されているので、記憶に残りやすい。	授業に関わる情報量の多さに、終始聞き入ってしまう講義展開でした。参考にさせていただきます。
授業のテンポの良さ、学生のコントロールなど、絶妙なスキルで授業を運営していた。このスキルは学ぶべき点が多いと考えられた。	このようなスキルは、どうやったら培うことができるのか。
いろいろな図や絵を用いて授業をされており、字が少ないことで学生が興味をもって授業に参加していた。また、図形を反転したり。90°回転させて絵をパワーポイントで提示することで、今まで隠れていた絵が見えてくることを実感することができた。字の少ない授業ではあったが、その理論拝啓などもきちんと説明されており、たいへん勉強になった。	前方に着席している学生が全くいなかったことから、最後尾の着席列を決めると、もう少し前にも学生が着席するかもしれないと思った。まじめに授業をうけていた前方の学生が目立っていたように感じられたので、それがかえって浮いてしまう存在のように感じられた。
スライドに写真を多用していたため、学生達も飽きずにスライドに集中できていたと思う。先生ご自身のお子様の写真を使用されていた為、学生も興味を持っていたように思います。また、プリントとスライドをどちらも使っていた為、学生の視線がうまく動かせ、集中力の継続につながっているように感じた。	大教室での授業は、学生数が多く、遅刻や欠席を把握するのは大変だと感じた。2 限の授業に関わらず、遅刻をしてくる学生が目立ったが、遅刻してきた学生が自ら先生に名乗り出るなどの行動が見られなかった為、遅刻してくる学生の指導の統一、および大教室授業での出席管理については検討の余地があると感じた。
学生とのコミュニケーションが活発でやりとりが非常に多く参考になりました。 兄弟の役割について学生のパターンで具体的にお話しされていたのが、学生を惹きつけていました。また野球のポジションという例えが興味深く、身近な例からのジェンダーという分野への親近感が沸き学ぶ意欲につながるのだと感じました。	活発な意見交換は非常に良かったのですが教室後方の学生が、自由に意見を言いすぎていて、周りも少し不本意に巻き込まれている感じがしました。 また膝を立てて座っている学生や飲み物・携帯を机上に置いたまま受講している学生がいたことが気になったので、アナウンスが必要かと思います。
授業のはじめに、先週の振り返りとしてポイントを 2 点記述させるなど、短時間で有効な手立てだと思いました。また、それについてスライドで簡単になぞられていたので、余計に定着していくのだろうと感じました。私もこうしたことを積極的に取り入れてみようと思いました。	とてもまとまりのある授業のマネジメントでした。プリントとアンケートシート、そしてスライド、隣同士での話し合いなど、テンポがいいですし、ずっと集中を切らさずに参加させてもらえました。私の授業でも取り入れて、学生の書いたり考えたりするリズムに合わせられるようにしたいと思いました。
教科書を指定されていますが、毎回プリントを丁寧に作成し、配布してらっしゃるようで素晴らしいなと思いました。また、要点をまとめたり、難しいところや例などを適宜板書されたりしており、先生は動きのある授業を展開されていました。私は普段パワーポイントでの授業が多いのですが、大事なところはパワーポイントだけではなく板書で改めて説明したほうが学生にはわかりやすいのかもしれないと気づき、大変参考になりました。	学生は板書を書き写したりメモをとったり、真面目に学んでいました。
ところどころ、身近な事例を取り上げて、多くの人が難しく感じることをわかりやすく教えていました。また、ひとつひとつの統計を用いて現象を理解ようとする考え方などがとてもわかりやすく、私の授業でも、ぜひ活かしたいと感じました。	
学生がその日に学んだことを自分でまとめるプリントが配布されていて、学生が自分で整理できるような形になっていた。 プリントがそのほかにもさまざまに工夫されていて、学生が理解しやすい形となっていた。説明がとても明快でわかりやすかった。	学生がとても静かに授業を聞いていたので、とても良い授業だと感じた。

授業で用いたパワーポイントのデータを、授業後に Cols にアップすることを毎授業なさっているとのことでした。自分自身の授業でそういった方法をとったことは無かった(そもそも発想がなかった)ので、参考になりましたし、今後やってみたいと感じました。また、毎回 Cols へのアップをする中でお感じになっているメリットやデメリットについてもお伺いしたいと思いました。 授業中に私語が多くなったときに、敢えて沈黙なさって学生の注意が向けられるのを待っていたことも印象的でした。私の授業では、履修者が少ないこともあり、名指しで注意したり、静かにするよう再三指示したりしてきましたが、敢えて黙る方が、学生が自ら気づき、態度を正すよう喚起できる点で有効なのではないかと思います。今後はそういった方法もとりたいと考えています。	
グループワークの際、机間巡回をされながら、学生の様子に合わせて言葉かけをされていました。学生の保育観を醸成していくうえで、このような「自分たちで保育について考える」という取り組みは、保育者となった時の保育観をすり合わせながら働くという土台になるのでは・・・と感じました。学生にとっては「今」学ぶことに一生懸命でも、教員側ではこの授業は保育者の資質能力のどこを高める授業なのか見通しておくことが大切であると改めて学ぶことができました。	
授業活動が整理されていて学生はとてもわかりやすかったと思いました。具体的には、何を 90 分でやるのかというスケジュール、何をどのようにいつまでやるのかという授業内容が明確でした。さらに、先生のはっきりとした指示や学生の反応を常に確かめて進めておられることで、学生のやる気や雰囲気を損なうことなく授業がテンポよく進行していました。さらに、どのグループの発表にも肯定的に評価されて、賞賛するだけでなく、適切な質問や指摘をされていました。具体的には、「〇〇でどのような感性を？」「地域との関係とは？」ということです。 学習態度や学習理解が最も悪いと感じていたクラスでしたが、今回の授業で見せてくれた学生の活発な表情、発表時の緊張などは、とてもいいものを秘めているなと思い、私が「決めつけかけていた」負の評価を改めることができました。 秋期には、このクラスの授業（演習）が始まりますが、先生の今回の授業で学ばせて頂いた「笑顔あふれる授業展開とそれに応える学生の学習」は、大変参考になりました。私も、そのスタイルを少しでも応用して秋期の授業に臨みたいと思いました。	後ろの学生は、どうしても後半、伏せてしまいます。もったいない限りです。
当日は、学生の発表ということで、学生たちのポスターがとてもすばらしく驚きました。学生たちが主体的に取り組む活動を授業に取り入れていて、素晴らしいですね。ぜひ参考にしたいと思います。	保育専攻の授業は、少人数での講義が多いようなので、クラスの学生たちのまとまりがありました。実際に保育士になるまでの指導はさぞかし大変なことでしょう。彼らの個性を引き出しながら指導されていることに頭が下がります。
発表者以外は各班の発表内容に対して質問をする、またその内容を記録するという課題（で良かったでしょうか？）があることにより、他の班の発表時にきちんと聞いている様子が伺え、とても参考になりました。自身の授業でも取り入れてみたいと思います。	グループでの作業→発表　ということで、学生が主体的に楽しく授業に参加している印象を受けました。 おもしろいアイデアがいろいろと出ていて、聞いていてとても楽しめました。
小テストは、学生が毎回復習できるのでよいと思いました。でも毎回の採点が大変なので、なかなか真似できないです。	実際にやってみて学ぶという方法が、本学の学生に合っていて、よかったです。

授業にめりはり（聞く、話す、考える、動く、等）があり、１分１分に無駄がありませんでした。指示が的確で、学生たちも授業の流れを把握し、主体的に動いている様子がみられました。私自身の授業でも、あらかじめ授業の流れを綿密に組み立て、学生たちがボーッとする時間がないよう指示を出していきたいと思います。 また教室のイスが車輪のついているものだったので、簡単に環境設定を変えることができ、とても学びやすい教室でした。	保育者としての視点、気づきが授業の要所にちりばめられていて、学生たちもとっても活き活きしながら学んでいました。学生発表のあと、涙を流して安堵したり喜んだりする学生もおり、それほど真剣に取り組んでいるのだと感じました。とても勉強になりましたので、今後も機会があれば是非また参観したいです。
モニターがとても見やすく、わかりやすかったです。実習だったので、学生たちが自ら動いている様子が見られ、とても活気づいていました。 自分が担当している授業とは形態が違うのですが、教員が完璧に説明することよりも、ざっと説明したらまず学生たちにやってみてもらい、そこでつまづいたり、気づいたときに助言するというやり方は、学生たちの学びにつながっていると感じたのでぜひ参考にさせていただきたいと思いました。	基本がわかっていない学生も多いるので、先生一人で見られるのは大変そうだと感じました。先生自身もおっしゃっていましたが、ＳＡやＴＡ等を入れて、何人かで見る体制にした方が危険を回避しながらよりきめ細かく指導できると思います。
日本における〇〇と〇〇教育の授業であったが、貴重な映像も多く、映像の貴重さを改めて知りました。	
運動有能感を育む体育授業づくりについて。 プリント配布型授業。また、小学校の先生が授業をしている映像を見せ、その工夫について検討する方法は、今後、私の授業でも取り入れたいと思いました。プリントとビデオを巧く使いこなされていたからです。	学生の様子は、一生懸命頑張っている者もほとんどでした。こんな先生に私も教わりたかったです。
当日は、各グループで作成したペープサートを使って、演じるところを見せていただきました。先生がそれをビデオに録画し、翌週には学生自身にもみせるおつもりとのこと。自分が演じている姿を子ども側の視点で客観的にみてみることは非常に有意義だと思います。学生がとても楽しそうに演じていたのが印象的でした。作るだけでなく、演じること、そしてそれを客観的にみることを取り入れていらっしゃる点が、実践力を育てる意味でも非常に参考になりました。	
学生が 1 コマの間、きちんと授業を向き合える、そんな授業を展開される配慮を見習いたいと思います。今、目の前にいる学生たちが、どういう展開をすることが最も彼らに受け入れられ、効果が高いのか、その配慮が、素晴らしいと思いました。参観だけでなく、実際に学生たちの声でも聞いたことがあります。私が学生と雑談をする場面で、「先生の授業が、わかりやすいし、楽しいし、好きだ」という言葉をよく聞きます。先生の学生に対する気持ちが伝わっているからこその、学生からの言葉だと思います。 授業計画について、綿密に練られているからこその、毎時の展開なのではないかと考え、自分を振り返りました。学生たちに身につけてもらいたい力とそのために必要な教育を、しっかりと考えていきたいと思います。	
学生一人一人に目を配りながら授業を進めておられました。一限の授業ということで、学生たちも元気がない中、講義の中で学生のモチベーションを上げながら進めているところがすばらしかったです。ぜひ私も授業に取り入れたいと思います。	自分のクラスの学生たちの様子を知りたいこともあり、授業に参観させていただきました。クラス替えをしたこともあって心配していましたが、クラスメイトと適度な距離を置きつつも、熱心に授業を受けているようなので、安心しました。今後も時間があれば参観したいと思います。

笑いを取ること、導入の楽しく明るい雰囲気作り。 メリハリの利いた、授業計画。	授業のパワーポイント：一部字が見にくかった。太い書体(ゴシック体など)で統一した方が良い。 アクティブラーニングで、話し合いをさせる相手を全ペア指示していたのが印象的でした。10 週目でも指定してあげないといけないのね。しかも、指定の内容を話し合っていない人たちが出ていました。40 名弱のクラスでこれでは、大教室でＡＬは無理なのだろうと感じました。 授業の後半はおしゃべりも多かった。ポートフォリオに取り組む前後で、関係のなさそうな話が増えている。 ポートフォリオ：先週 1 週間では、10 日前の出来事になるため、かなり表面的な回答が目立つ。学修を思い出させる(記憶)ためなら、「前回の授業 」から「今日の授業の直前」と指定した方が適切ではないでしょうか。

3）授業研究

①目的

本学では授業相互参観が授業改善の一翼を担ってきた。しかし、時間割や業務の都合で同時に多くの教員が同じ授業を参観することは困難であり、参観後のディスカッションになかなか結び付かないという反省点が挙げられていた。今年度は秋学期に 3 名の教員が担当する授業をあらかじめ指定し、そのいずれかを必ず参観し後日設定された FD 研修会にて授業毎に授業研究として討論をし、更に授業改善・向上の糧とすることを目的として授業研究が行われた。

②実施日及び授業担当、担当科目

平成 25 年 11 月 26 日（火）5 限　中川佳子教授　「乳幼児心理学（講義）」
平成 25 年 11 月 28 日（木）4 限　出口保之教授　「少年非行の心理」
平成 25 年 11 月 29 日（金）1 限　郭　潔蓉教授　「経営組織論」

③実施の手順

今回の授業研究実施にあたって、24 年度に行われた授業評価アンケートの項目の中で、「学生満足度」に該当する評価が高かった教員の中から FD 委員会が推挙し実施をお願いした。承諾を頂いたうえで授業研究科目を設定し、各教員に参加可能な授業を選択してもらった。参加者には「授業研究参観シート」を事前に配布し、「参考になったこと、自分の授業で生かしたい点」「気づいた点・提案」「感想」などを記してもらい提出をお願いした。

授業研究実施後に「平成 25 年度第 3 回 FD 教職員研修会」を 12 月 11 日（水）の 12：50～13：30 を設定し、そこで授業毎に分かれて授業研究をもとに討論を行った。研修会の討論内容については研修グループの報告を参照されたい。

④授業研究参観シートのまとめ

本学では授業相互参観の風土は既に定着していると考える。平成 25 年度はそれをさらに進め授業研究を実施することができた。多くの教職員が同一の授業を参観することによって自らの授業改善・向上に役立てようという試みは大きな効果が得られた。特に「授業評価アンケート」において学生満足度が高い授業を今回は選定したこともあり、学ぶところも大きかったようである。以下、代表的なコメントを記す。

講義 1

参考になったこと、ご自分の授業で生かしたいと思ったことなどをご記入ください。また、その理由も教えてください。	お気づきの点やご提案などございましたらご記入ください。	ご感想などをご記入ください。
教科書のパートを割り振りし、学生のグループ発表を行うことで、学生のコミットメントが高まっている様子がうかがわれました。担当者はそれを受けて、受講生に質問を多々できるように促し、それに応じて学生も随分と質問や意見を出しており、あのような多人数授業でどしどし手が挙がるのはすばらしい。そして、質問事項など学生に記載を求めることもこのような活発な挙手行動を促進していると理解できました。 そして、この学生の発表、質問等を受けて、担当者が巧みに解説しながら授業を進めていることもすぐれています。学生が発表に用いたスライドを上手く用いている（活かしている）ことも学生のコミットメントを高めていると思います。	1 回の授業シーンのみなので、全体のことは分かりませんが、授業の中で扱っている内容量はどうなのか（多くの大学の授業に比べて－どこと比べるのかにもよりますが－少なくなっていないかどうか）が多少気になりました。 また、回を追うごとに、学生の質や意見の質は向上しているでしょうか。	
大教室においても、学生と双方向でアクティブラーニングを実践していた点が素晴らしいと感じました。特に学生の質問に対して加点をされているのは、大教室でも多くの手が上がる良いシステムだと思いました。以上の 2 点、ぜひ、私自身の今後の授業にも活かしていきたいと思います。		先生の学生の発言に対するリアクションが大変良かったと思います。先生のコメントが授業の能動性向上に大きな役割を果たしていると感じました。私も先生を見習って、能動的な授業につなげられるよう頑張りたいと思います。
学生が活発に質疑に答えていた点が印象的でした。先生の質問に対して自発的に手を挙げて発言する仕組みと関係づくりを、私も取り入れたいと思いました。 具体的な仕組みとしては、質問した内容を提出シートに書きポイント化していること。関係づくりとしては、はじめの数回で自由に発言させどんな発言でも褒めることで、学生との和やかな関係ができ、学生たちが発言がしやすくなったところ。 発言を得点化は取り入れないと思いますが（自己申告の信頼性の問題、および発言のカウントの困難さのため）、学生とのやり取りを楽しむことは必要だと感じました。		学生がこのように発表を行うことができ、かつこのように準備は大変だし質疑応答も緊張するがアクティブなやりとりのある授業を楽しいと思うのだと分かったことが、最大の収穫でした。ただ、この授業が評価されている最大の理由は、先生が後半でうまく発表を取り入れながら解説しているからでしょう。学生の発表と質疑応答だけでは、授業料は何のために払っているのかという学生が出そうです。

学習プリントについて、発表への質問内容を書き込ませるように工夫されていたので、自分自身の授業でも取り入れて、学生への意識付けに役立てたいと思いました。		以前学んだ内容を何度も繰り返して質問している場面があり、授業のつながりが見えました。学生があんなに積極的に手を挙げて意見を言っている授業を見たことがなかったので、驚きました。授業規律がしっかり刷り込まれている事にとても感動しました。
グループ発表の仕方に学ぶことがあった。 授業内容が学生にとって身近なものとなっているように感じた。グループ発表も学生それぞれに努力した姿が窺えた。発言も多く学生の主体性のある授業であった。グループ発表ができるまでにご指導なさった先生の素晴らしさを感じた。 学生にタイムキーパーの役割を持たせていることもよかったと思う。 学生が挙手できる環境が作られていた。	学生が主体的に私語もなく授業に望んでいることに驚きました。	大教室で学生がのびのびと主体的に授業を受けることが可能であることを知らされました。
次のことはとても大事だと思いました。自然になさっていました。自分の授業を反省する機会になりました。いくつかさっそく真似してみようと思います。 ①表情：明るい、笑顔 ② 発語：声の明瞭さ、大事なことを繰り返す ③ 問答：学生の経験から具体例を引き出す、他の学生に分かるように言わせる ④ 学生への対応：発言させてそれを理論と結び付ける、何でも言わせる ⑤ 机間巡回：学生の中へ入って時間内には一巡する ⑥ 時間配分：学生発表 40 分、講義 40 分、振り返り 10 分	学生の 2 つの発表は、パワーポイントの作り方も説明の仕方も 1 年生なのにとても上手でした。 学生の発表準備の指導にはどのくらいの時間を割いていらっしゃるのか知りたく思いました。 学生が伸び伸びしていて、楽しそうに授業に参加していました。私語がないのに驚きました。	あっという間に 90 分が過ぎ、楽しい授業でした。

講義 2

参考になったこと、ご自分の授業で生かしたいと思ったことなどをご記入ください。また、その理由も教えてください。	**お気づきの点やご提案などございましたらご記入ください。**	**ご感想などをご記入ください。**
授業開始前に黙想の時間をとり、気持ちを集中させてから号令をかけていた。気持ちを切り替えたり、落ち着かせたりするのにとても良い方法だと思ったので、自分の授業でも様子を見ながら取り入れてみたい。 スライドで「毎回提示の約束（出席、遅刻、私語居眠りなど）」を写し出し、学生たちに毎回動機づけをしているので、この授業ではどんなところで評価されるのかが明確でわかりやすい。言葉で伝えるだけではなく、文字にして毎回動機付ける必要性を感じた。 机間巡視を積極的に行い、学生に質問を投げかけているので、学生も緊張感をもって授業を受けていた。今までの授業と本日の授業のつながりを何度も確認し、理解を深めていた。	学生たちが主体的に授業に臨む姿勢が見られた。私語をしている学生が誰もいない。	先生の授業を参観させていただき、学生たちが集中できる環境づくりをとても丁寧にやられているので、学生たちも主体的に授業に臨んでいると感じました。リアルタイムな事件を取り上げ、臨場感あふれる授業内容でした。私自身も学生の学ぶ環境づくりや、内容づくりの面でも先生を見習い、少しでも近づいていけるよう精進します。

学生に考えさせる時間をしっかりとって授業を展開しているところが参考になりました。 理由：自分自身の視点でものごとを理解するということを身につけさせるために有効だと感じた。 最近の起こった事件を取り上げて、説明されていたので学生も身近な出来事として聞いていたように思われます。 理由：学生に学問と実践の結びつきを理解させるために有効だと感じた。		机間巡視が徹底されており、学生を常に授業に引きつける工夫が随所にあったと思います。先生の声量が大きくとても聞きやすかったです。先生が「なぜ」という問いかけを何度もされているところが印象的でした。
第 1 に，受講生全員が授業規律を守っているところが挙げられます。そのための先生のご指導が徹底しているのが素晴らしいと思いました。具体的には，授業前後の礼において，受講生がただ何となく立って頭を下げて終わってしまわないよう，全員が静かに正しい姿勢になるまで待たれていました。また，机間巡視しながら質問を発することにより，どこに座っている受講生にも緊張感をもって授業に臨むよう促されていたと思います。 第 2 に，受講生を授業内容にひきつける工夫がありました。授業で扱う概念の具体例として時事問題を扱うことにより，受講生が興味をもって聞くきっかけを作られていました。 第 3 に，受講生の学びを促す評価の仕方も参考にさせていただきたいと思います。毎授業後に学生にレポートを書かせ，その内容が良かった学生には次の授業時間で発表させるという方法をとられているようでした。そのことによって，まず，発表に当たった受講生はとても誇らしそうでした。次も発表させてもらえるようなレポートを書こうと思うだろうと感じました。また，発表者のレポートの観点は発表者によってさまざまであり，それを聞いた受講生は，多様な観点があることを知って学びを深めていく機会になるであろうと思いました。	受講生の学習スキルとして，ノートをとるスキルと作文力が磨けると良いと思いました。ノートをとるスキルに関しては，例えば，良かったレポートの発表が行われている際，その内容のメモを取る姿は見受けられませんでしたので，そういった点を指導できたらよいと思います。また，作文力について，発表されたレポートの内容はとても良かったと思いますが，「私的には」など幼い言葉遣いも見て取れました。先生の授業でということではなく，大学全体で改善していけたらよいと思います。	授業を見せていただいて大変勉強になりました。さらに，そのことを他の参観された先生方と共有できるのはとても良いと思います。
○講義ルール・テーマ、授業前にスライドで見せておくことについて →守るべきこと・やるべきことが明確でわかりやすいと感じるから。 ○最近のニュース内容・以前に抗議で扱ったニュースの続編を冒頭部分に用いることについて →学んでいる内容が、世の中にあふれているニュースにもつながっているので身近に感じることができ、その身近な内容を学んでいるという実感ができるから。 ○緊張感のある授業（ランダムに学生をあてる・ウォーキング）について	○ノートを作っている学生よりは、教科書にラインを引くなどの対応をしている学生が多く見受けられました。初回の講義時に、事前に教科書を読んでくる等の指示があるのかなどをお伺いしたいです。	○学生たちが静かに取り組んでいる姿勢や一斉に教科書を拓く音など、一生懸命に学ぶ姿勢に感心しました。この授業の雰囲気作りに近付けるように私自身も努力していきたいと思いました。 ○毎年、授業見学をしていますが、例年同じ内容ではなく、毎回レベル UP していく授業内容、さすがだと思いました。

→他のことをやっている学生がいない。また、学生の返答を活かしながら、授業のまとめにつなげられているので、学生自身も学んでいて満足度が高いと感じられる。それと同時に教員側が色々な学生の返答に答えられるような沢山の知識が必要になる。 ○授業内レポートの取り組みについて →学生が学んだことをその場で、まとめてショートレポートを作成するので知識として定着しやすいと思う。		
実に静粛な授業でした。あのように静かな授業シーンはこれまでかって見聞した経験がありません。授業前の膝に手をおいての黙想から始まる授業に驚きを感じました。同じ大学の他の授業シーンとの違いに不思議すら感じました。 前回の課題から選んだものを通して復習。その際には、最近の傾向を新聞記事から取りあげて解説。授業内容に新鮮さが増し、学生の関心を惹きつけている。 この日の授業の主テーマを解説した後に、事例を取りあげそのテーマに適用させて考えさせる。しかも、その課題を書かせている間にこれまでの授業で触れたいくつもの切り口を思い起こさせるように仕掛けをしている。授業内容の反復的想起、それと、いくつもの視点を適用してこそ、授業の内容を解明できることを会得させようとしている仕掛けは見事です。	1 回の授業シーンのみなので、全体のことは分かりませんが、授業内容のポイントが随分と絞り込まれていました。授業内容の量はどうなのか（多くの大学の授業に比べて一どこと比べるのかにもよりますが一少なくなっていないかどうか）が多少気になりました。 授業で教員が直接言及する理論等は少なくとも、学生は教科書を自主的に学んでいくことを促ししているのでしょうか。	

講義 3

参考になったこと、ご自分の授業で生かしたいと思ったことなどをご記入ください。また、その理由も教えてください。	**お気づきの点やご提案などございましたらご記入ください。**	**ご感想などをご記入ください。**
ICT をうまく用いての授業展開で、双方向の趣旨がよく表れていました。いわゆる講義ではない、小集団活用のワーク実践の模範と言えます。 学生の発言をすべてポジティブに評価し、些細な点であれ、さらにその先を考えるように促していることは先生らしいものと思います。学生にとって、創造的な話し合いを楽しめる授業だと思います。アイデアの創成が主眼の授業とお見受けしました。 全 15 回の授業の 1 回分でしたが、これが毎回ならば、確実の学生の話そうとする姿勢は次第に増していくと期待できました。	参観させていただいた日のテーマについてですが、おそらく、複数の授業とかならいオーバーラップするように思います。学生は他の授業で触れられていることについてなかなか述べないものです。授業間の連携・調整が必要かと思いました。	1 年次の学生にとって経営に通じる組織をイメージし難いものと思います。この科目が 3 年次あたりですと、かなり異なる授業展開があるのかなと思いました。

学生一人一人の顔を見て名前を呼び、明るく楽しく元気よく授業をなさっていました。 初めは個人の記述・個人発言でその後はグループでの話し合い・グループ発表になり、最後には自分の考えの変化を確認するというふうに組み立てておられました。時間配分もほぼ15分刻みで緩急に富んだ授業でした。また、テキスト、iPad、大型画面を学生に適宜活用させて学習が進められ、どの学生も授業に参加していました。 学生の集中力を維持し、学んだ実感を持たせるこれらの手法は見事だと思いました。	今回の授業内容は、そっくり「よい授業をする教師の条件」なのだと思いました。1 時間の授業を参観して、先生がそのままその条件を体現していると思いました。	自分の授業の改善点が明確になりました。
１時限目にもかかわらず、遅刻が少ない（2名）のには驚かされました。声の通りがよく、教室の真ん中で話をされ、時には問いかけることなどを通して学生へ学習への参加意欲を高めていること、またパワーポイントが直観的な理解ができるような作りになっていることなどは参考になりました。 学生も先生が発表をうまくフォローされているので、臆することなく発表を行い、グループワークも慣れているのかスピーディにまとめ、短時間でパワーポイントの作成まで行っていることには関心いたしました。	グループ内での役割が明確になっており（これまでの授業で自然と役割がきまっていったのでしょう）、効率的なワークが行われている反面、パワーポイントの作成などは個人的なスキルがかなり反映されているように感じました。 私の授業もそうですが、教科書の購入についてはもう少し促す必要があるかもしれません	このぐらいの人数ですと、ワークをしていても学生も積極的に参加しやすい雰囲気も作れますし、適度な緊張感ももてて学習効率が上がっているように感じました。20～30 人が一つの理想的なクラス編成なのかもしれません。A402 教室での授業のモデルとして大変参考になりました。ありがとうございます。
身近な学生でも経験した考えることができる事柄をフックとして、理論に持っていく手法は、興味を湧かせ、継続させるうえで参考になった。特に、その展開にメリハリがあったことはすばらしいと思った。		ファシリテーションがすばらしい。グループワークと理論講義へのつなぎがスムーズで、時間の配分を含めて準備が周到であったことがうかがわれる。

個人ワーク⇒グループワーク⇒個人ワークの流れの中で、グループワークを短時間で活性化させるためには、前半の個人ワークの発表・解説で、学生のエンジンをかけられるかが重要なのだと感じました。そのために、小さなことでも質問を投げかけて話させる、用語の検索を競わせ発表させるなどは、学生が取り組みやすい課題として参考になりました。 理論の説明につなげる個人ワークが、自分に引き付けて考える内容であるため、その後の解説が頭に入りやすいように感じました。また、理論の説明を短時間に、エッセンスのみ伝えることで学生の注意が続きやすいように構成されていました。確かに、1年生であれば、あそこまで伝える内容を潔く絞りこんでしまう必要があるかもしれません。学年に応じて伝達内容を制限することの大切さを感じました。 グループワークのアウトプットの完成度の高さに驚きました。おそらく、グループディスカッションの時間が長すぎず、短すぎず、学生が緊張感を持って取り組める時間を設定していらっしゃるからだと思います。 ICT のシステムとホワイトボードの最大限の活用を期待した授業展開になっており、また、3つのワークで用いる問いかけの工夫によりワーク間のつながりがわかりやすく、授業構成を考えるのに時間をかけられている様子が伝わってきました。		1 時限であるにもかかわらず、学生が生き生きと　していることにびっくりしました。いつも教えている学生と全然表情が違うので、学生のエネルギーを生かすも殺すも教員次第なのだとつくづく感じ、深く反省しました。

4）授業評価改善アンケート

①実施概要

前年度同様、学期中間において該当授業の「よかった点」「改善してほしい点」および「施設に面での要望」を学生に自由回答形式で求め、学期後半への授業改善の資料とした。中間アンケートに関しては各教員が授業改善・向上のための資料とすべくＦＤ委員会への提出は求めていない。

学期末においては 21 項目からなる「授業評価改善アンケート」および中間期に行った自由記述のアンケートと同様のものを学生に配布し回答を求めた。期末のアンケートは学生により実施され、回収後厳封されたうえでＥＭ局に提出ご集計され、各教員にはその結果が報告された。この「授業評価改善アンケート」については授業毎に集計された結果に基づいて教員から「１．授業評価アンケート結果に対する所見」「２．授業改善に向けて」「３．その他、要望など」から構成される「所見表」の提出をもとめ、アンケート集計結

果とともに本学図書館にて公開することとなっている。

②-1 実施時期（中間授業評価アンケート）

春学期・秋学期とも各授業の 7～9 回目の授業で実施

②-2 実施時期（学期末授業評価アンケート）

春学期　平成 25 年 7 月 1 日（月）～7 月 22 日（月）

秋学期　平成 26 年 1 月 6 日（月）～1 月 27 日（月）

③今後の課題

平成 24 年度秋学期より「授業評価改善アンケート」結果に対する「所見表」の提出を求めた。「所見表」の提出は専任教員から始められ、25 年度秋学期からは非常勤講師へ「所見表」の任意提出をお願いするとともに、26 年度春学期からは全教員が「所見表」を必ず提出していただくことをお知らせした。25 年度秋学期は非常勤講師からの提出は少なく、26 年度への移行としては不安材料がないわけではない。「所見表」公開の文化を育むことも課題としなければならない。

「授業評価改善アンケート」の実施時期については概ね妥当であるという意見が多い。しかし、学生の負担を考えるとすべての教科において実施するよりは教員毎に指定された科目において実施すべきという意見も出されている。

平成 26 年度は通学過程と通信教育課程それぞれで行われている「授業評価改善アンケート」を再検討し統一することが課題となっている。26 年度を検討期間として項目等の見直しを行い、27 年度春学期から共通した「授業評価改善アンケート」を実施する予定となっている。

5）今後に向けて

今年度は「授業研究」の導入を果たしたが、今後この風土を定着させるとともに改善への具体的なアクションに向けた試みを導入していかなければならない。授業研修グループとの連携をはかり本学独自の「授業研究」やアクティブラーニングの構築が望まれる。さらには学生から授業改善に関する意見を積極的に聞くための方法、たとえば「学生ＦＤ委員会」のような学生が積極的に参与できる組織を発足させ連携をとっていくこともできるのではなかろうか。いずれにせよ組織的・効率的な授業改善のため、あるいはこれら結果を学内外に発信するためのＩＲの導入は欠かすことができない課題である。

（3）授業研修グループ

【要約】

授業研修グルーでは、本学の課題としてあげられている ICT 教育の充実のために、ICT 機器の利活用および各教員の ICT スキル向上を目指した FD 活動として、教職員を対象とした研修会を年 3 回開催した。春学期には、電子黒板を導入した教室において、機器の利活用に関する研修会をおこなった。また、秋学期には、Google フォームのアンケート機能についての研修会をおこなった。さらに秋学期には、授業改善グループが中心となって実施された 3 名の教員による授業研究を対象とした研究協議会を開催した。

一方、平成 23 年度から実施している、学生の大学生活に対する満足度や生活状況に関する調査をおこない、学習成果の指標のひとつである GPA（Grade Point Average）との関連を検討した。

1）はじめに

本学における ICT 教育の充実は、開学以来の大きな課題のひとつである。学生個々の ICT スキルを向上させることが教育目標のひとつに挙げられるが、新たな ICT 教育環境を利用する教職員のスキル向上も必須となる。授業研修グループでは、主に教職員における ICT スキルの向上を目指した研修会を実施している。昨年度までの研修会では、主に CoLS 機能の利活用に関するものであり、CoLS の新機能に関する研修、授業内における CoLS 掲示板機能の活用、および授業外学習時間確保を意図した CoLS の活用などであった。今年度は、電子黒板やノートパソコン、iPad を常設した教室（A402 教室）を新設したことにともない、導入された機器の利用方法について情報処理センターの担当者による研修会を実施した。

また、本学では学生を対象とした種々のアンケート調査がおこなわれているが、マークシート形式や自由記述形式のアンケートが主であるため、回答する学生にとっての負担が大きいことが課題であった。そこで、回答方法の簡素化や時間的拘束の緩和を目指した新たなアンケート調査の方法として、Google フォームのアンケート機能を紹介し、インターネットによるアンケート調査の利点などについて提案した。

2）電子黒板等の利活用に関する研修会

①目的

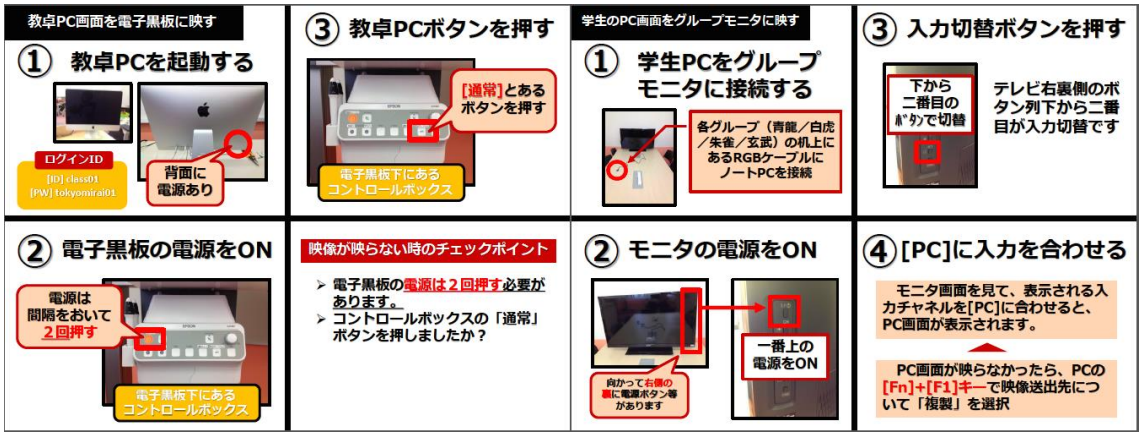
本学では教職員の ICT スキル向上を目指した研修会を継続的に実施している。今年度は、新たに導入された電子黒板等 ICT 機器の利用方法に関する説明、および電子黒板を中心とした ICT 機器の活用事例に関する紹介・提案を通して、授業や学生指導における ICT 教

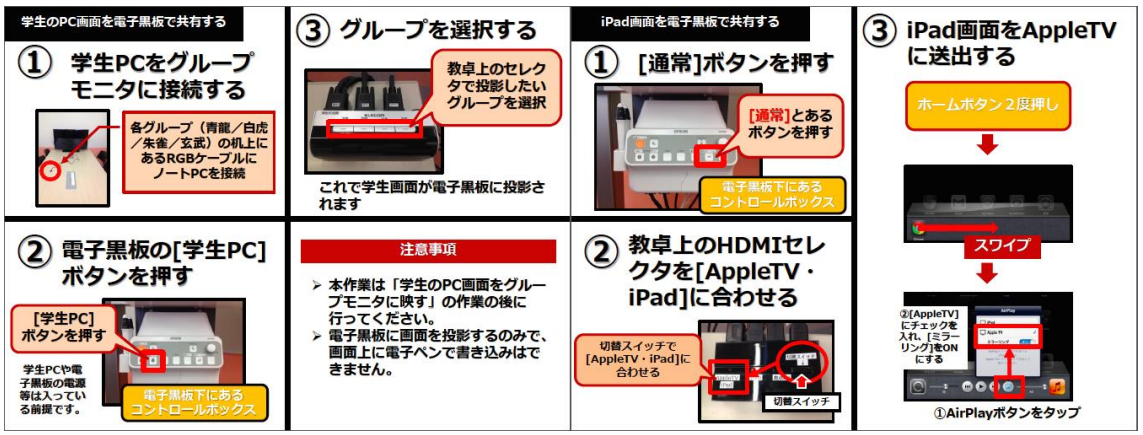
育環境の活用を促すことを目的とした。

②内容

研修会のテーマは「A402 教室の ICT 機器使用説明」であり、情報処理センター・丸尾氏によって、A402 教室に常設された電子黒板等 ICT 機器の使用方法、および同教室の運用方法について説明があり、使用事例について紹介・提案された。具体的な内容は以下のとおりである。

- 教卓 PC 画面を電子黒板に映す
- 学生の PC 画面をグループモニタに映す
- 学生の PC 画面を電子黒板で共有する
- iPad 画面を電子黒板で共有する
- 教卓 PC で電子黒板を使用する
- 学生がグループワークで電子黒板を使用する





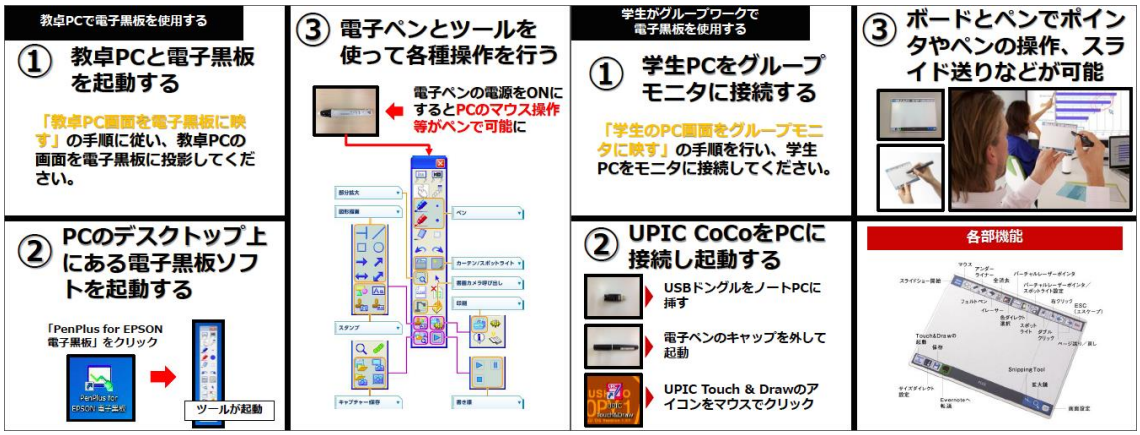


図　電子黒板等 ICT 機器の使用マニュアル

③期日

平成 25 年 7 月 3 日（水）

3）Google フォームのアンケート機能に関する研修会

①目的

本学では学生を対象とした種々のアンケート調査がおこなわれている。調査対象となる学生の負担を軽減するために、回答方法の簡素化や時間的拘束の緩和を目指した新たなアンケート調査の方法として、Google フォームのアンケート機能を紹介し、インターネットによるアンケート調査の活用を図ることを目的とした。

②内容

研修会のテーマは「Google フォーム機能によるアンケートの作成」であり、FD 委員会・藤本委員によって、Google フォームのアンケート機能を活用した各種アンケート・フォームの作成方法、回答概要（グラフ表示など）、およびデータのダウロード（Excel 形式）について紹介された。

図　Google フォーム作成画面

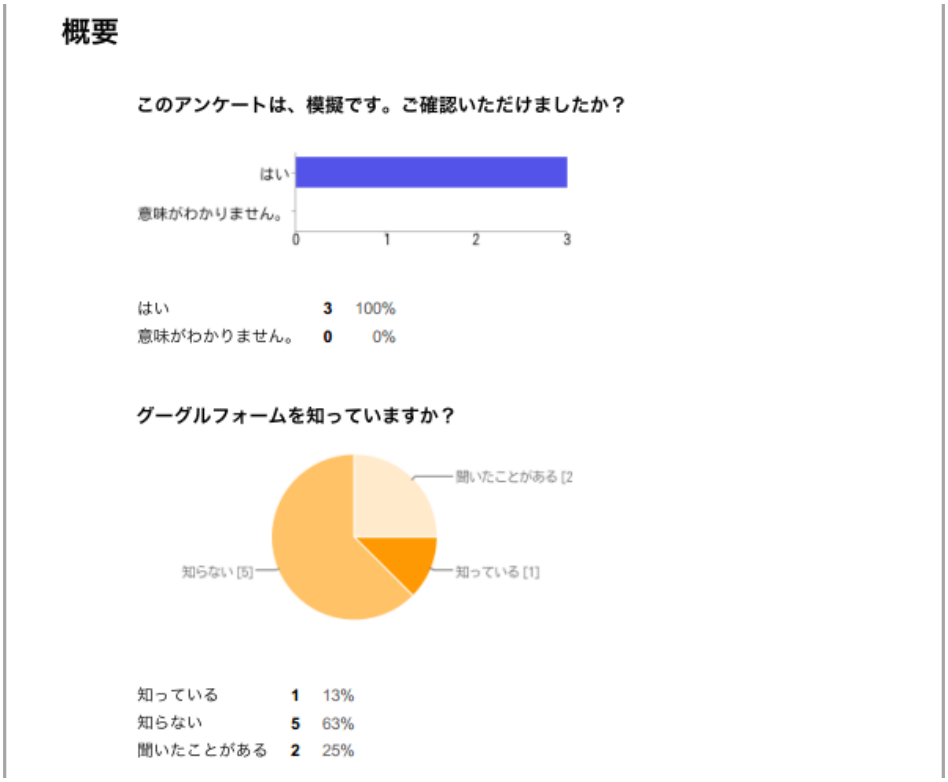


図　回答概要のサンプル

③期日

平成 25 年 10 月 30 日（水）

4）授業研究後の研究協議会

①目的

本学では授業改善グループを中心に授業相互参観をおこない、授業改善に取り組んできた。今年度は、秋学期に 3 名の教員による授業を対象とした授業研究がおこなわれた。そこで、教員相互の更なる授業改善・向上を目指した研修会として、当該授業について協議・討論することを目的とした。

②内容

授業研究において参観した授業ごとに、3 つのグループに分かれて、授業担当教員と参観した教員との間で質疑応答、討論をおこなった。各グループにおける質疑応答や討論の進行は、FD 委員会の野田委員、藤本委員、および真家委員が務めた。質疑応答や討論の内容については以下のとおりである。

なお、授業研究の詳細については、授業改善グループの報告を参照されたい。

- 学生の主体的な学びを促す授業の工夫について
- 授業時間外の学習を促す工夫について
- 大規模教室（多人数）における授業の進行について
- 大規模教室（多人数）での授業における学生への対応について
- その他、授業内外における工夫について

③期日

平成 25 年 12 月 11 日（水）

5）今後に向けて

学生および教職員の ICT スキル向上を目指して、新たな機器の導入や LAN 環境の整備が進められ、研修会の開催などを通して積極的な機器の活用促進が図られてきた。今年度、新たに導入・整備された電子黒板や、ノートパソコン、iPad を常設した環境は、グループワークにおける効率的かつ迅速な情報共有が可能となり、設備の利活用によって多くの学習効果が期待できるであろう。しかしながら、本学の学生数に対して、設備の規模は必ずしも十分ではなく、この設備を活用した学習機会の提供が制限されることが予想される。これら ICT 機器を活用した学習の機会が、より多くの学生に対して提供されるよう、効果的な運用方法の検討が望まれる。また、学生の負担を軽減したアンケート調査の実施によって、学習環境や学生指導の改善に向けた有益な情報をより多く収集することができると考えられる。しかしながら、教職員感得の下におこなわれる紙媒体によるアンケート調査に比べて、インターネット上のアンケートでは回答率の低さなど懸念される課題がある。これらの課題を改善するための方策を検討しながらの運用が望まれる。

4. 全体会議報告

東京未来大学　平成 25 年度　全体研修

「アクティブラーニングを取り入れた授業改善について」

第 1 回　日時：平成 25 年 3 月 26 日(火)

第 2 回　日時：平成 25 年 9 月 12 日(木)

講師：慶応大学教授井下　理 氏

上記の日程にて、非常勤講師を含めた本学教職員を対象に、「アクティブラーニングを取り入れた授業改善」についての研修が行われた。研修内容は、以下のとおりであった。

（1）春実施：グループ討議による事例研究・意見交換

昨年度より、アクティブラーニングを全学的に導入し、対話型の授業、創造性や応用力を引き出す授業の実践を目指してきた。

アクティブラーニングを展開していく中で、大人数の授業やコミュニケーションが苦手な学生がいる場合に、アクティブラーニングをどのように実践していくべきか、また演習科目においてはどう展開していくかに関して検討が必要との声もあり、グループ討議を実施することとした。また、アクティブラーニングそのものにどのような効果があるのかを検証することも、グループ討議の目的のひとつとした。

グループ討議では、演習科目・講義科目問わず、様々な形態の授業を担当する教員でグルーピングし、アクティブラーニングを実施するうえでの課題や効果を討議した。

意見交換のなかで、アクティブラーニングがもたらす効果として、学習内容の理解度向上、学習意欲のモチベーションアップにつながると手ごたえを感じる教員もいるなか、アクティブラーニングでの問いかけや話し合いの利用が、基礎学力との定着と関係していないように感じるとの意見もあり、どのようにアクティブラーニングと基礎学力の定着を図るべきか、と疑問の声もあがった。

対話型の授業を展開するにあたり、やはり大人数での授業では困難を感じることが多く、少人数でもクラスによっては話し合いが成立しないクラスがあるなど、逆効果を感じる部分もあるとのことだった。

（2）秋実施：アクティブラーニング講演（慶応義塾大学 井下理教授）

秋の全体研修では、慶応大学教授の井下氏をお招きし、アクティブラーニング実践研究の視点からの講話をいただいた。アクティブラーニングの捉え方や実際に実施するうえでの注意点やポイントをお話いただいた。井下先生の講演

でアクティブラーニングのアカデミックな定義や、大学としてのＦＤの在り方とからめてアクティブラーニングを考えるという点からとても有意義で，方法が一つに集約できない大学の学びの場面で，授業者一人一人が自分の授業にあったＡＬを考えるべきことをご教示いただいた。

（３）研修内容の詳細について（当日使用 PP 参照）

東京未来大学　2013年度　FD研修会・AL講演

FDとアクティブ･ラーニング展開の課題

― グループワーク実践の経験から ―

2013.9.12

井下　理（いのした　おさむ）
（慶應義塾大学）

(C) 2013 Osamu Inoshita

アクティブ･ラーニング（AL）

対義語としての「受動的学習」
＝講義型／解説拝聴／受信・理解・吸収

アクティブ・ラーニング＝「能動的」
「活動的」「行動的」
「主体的」「自律的」「積極的」
「参加型」「体験型」

(C) 2013 Osamu Inoshita

「講義を聴く」のは「受動的」か

「積極的傾聴」はどこに分類すべきか？
「無関与型・服従型」活動は、アクティブか？

受信＝受動的
発信＝能動的

行動的・活動的＝積極的・主体的か
瞑想・沈思黙考＝消極的か

新任教員の悩みの例

- ▼ 授業中、うるさい
- ▼ 私語が多い
- ▼ すぐ寝てしまう
- ▼ 90分の授業に集中できない
- ▼ すぐ飽きる
- ▼ 聞いていない
- ▼ ボーっとしている
- ▼ スマホを手離さない

などなど

AL成功の要件

1　ALを正しく理解して実践する
　― 特徴、構造（学生理解も含む）

2　ALが重視されてきた背景を理解し展開する

－社会的・歴史的背景
－文脈に位置づけられた展開：FDとの関連

留意点

1　「木を見て森を見ず」ではなく
　視野・文脈・歴史・空間・技術・環境・背景
　学習法だけに目を奪われない大切さ
　大学教育だけですべてを完成させようと力まない

2　目的・目標・理念・意義・対象に照らして考案

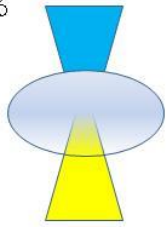
3　臨床知・実践知・応用可能性を意識

(C) 2013 Osamu Inoshita

大学における学修の2つの側面

1　職業準備：
　資格試験に合格する
　筆記試験への耐性
　体力・知力・感性

2　人格形成：
　外的指標がない
　幅広い側面



(C) 2013 Osamu Inoshita

正課での学習意欲

- 教える立場からの「上から目線」の問題点
- 「同列目線」と「下から目線」

- なぜやる気が起きないか
- なぜやる気が起きるのか

＜学校内で・学習された無力感＞

(C) 2013 Osamu Inoshita

学習行動の細目 （1）

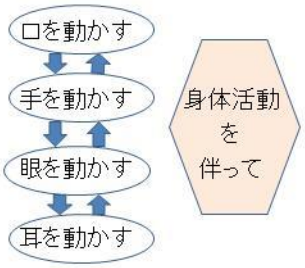
聴くだけ
目をつぶる
寝る
ノートを取る
言葉を発する
挙手をする
書いたものを見せ合う
ドリルに記入する
記入したドリルを交換する

読む
マーカーで色を塗る
本に書き込む
書く
話す
立つ
動き回る
対話・討議・意見交換
ペア討議

(C) 2013 Osamu Inoshita

学習行動の細目 （2）

レポートを読む
コメントを書く
内容について質問する
質問に答える
感想を書く
評価シートに回答する
チェックリストに記入する
ドリル・作業シート
音楽・映像を創作・制作



(C) 2013 Osamu Inoshita

学習法の多様化 （1）

ロールプレイ（役割演技）
ディベート
小集団討議
発表への準備過程
プレゼンテーション

黙る（沈思黙考）

(C) 2013 Osamu Inoshita

学習法の多様化 （2）

事例研究
フィールド調査
野外観察
疑似体験
プロジェクト参加
実験・調査・観察

ネットワーク活用
情報の送受信
SNS活用
写真を撮影する

(C) 2013 Osamu Inoshita

適合性の高いAL選定の重要性

1 目的との整合性・適合性の高い教授法選択
2 対象者特性に合った指導法
　学年／専攻／大学文化に合ったもの
3 学生の要請・要望・期待に合ったもの
4 複数のAL手法の組合せ・同時展開で相乗効果
5 ゴールは、教授成果ではなく学習成果

(C) 2013 Osamu Inoshita

2 展開方法

2－1 「Active」な学習法の特徴
1 受信型から発信型へ

聴く、読む → 話す、書く

2 個から集団へ

孤立・個別 → 相互に・集団で

(C) 2013 Osamu Inoshita

3－1 学習法が変化した結果

1 発信型へのシフト

＜課題＞

聴く → 話す ➡ 聴く姿勢の欠落
読む → 書く ➡ 書く力の教育

2 個から集団へのシフト

＜課題＞

3－2 グループワーク展開の課題

① 教員自身の経験・研修の不足
　－ 学習者の視野が想像できない場合

② 教員自身の「学習観」の変革
　－ 学習とは何か：理解し、暗記し、再生できるようになることという独り前理解（思い込み）

避けたい指導法（1）

集団内の葛藤に無関心・無配慮
成績評価の不公平感
作業負荷の偏り
作業に追われて、考えさせない
　　ー　行動させるだけではAL成立せず

(C) 2013 Osamu Inoshita

避けたい指導法（2）

「近くの人で適当にグループを作ってください」
編成上の偏り
大雑把な評価
業績主義
陰の効果への配慮不足
統制主義・強制・集団圧力
集団内のフリーライダー対策
表層的活性化／「自由気まま」

(C) 2013 Osamu Inoshita

結論：　学習者の主体性を尊重しつつ

教室で・授業中に
　小さな成功体験・達成満足を重ねること
　敏感な心情への共感性
　不安感や恐怖・警戒感を除外
　安心感・信頼感の醸成

教え込もうとしない。
学習意欲を育てるために教員にできることは何か。

(C) 2013 Osamu Inoshita

参考文献（1）

溝上慎一「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」
名古屋高等教育研究　第7号　2007　p.269-287
溝上慎一「カリキュラム概念の整理とカリキュラムを見る視点
ーアクティブ・ラーニングの検討に向けてー」
京都大学高等教育研究　第12号　2006　p.153-162
吉田卓司『教育方法原論』三学出版　2013
新井和広・坂倉杏介『グループ学習入門』慶大出版会　2013
金子元久『大学の教育力』ちくま新書　2007
井下千以子『レポート・論文作成法』慶大出版会　2013
市川伸一『学習と教育の心理学』岩波書店　2011

(C) 2013 Osamu Inoshita

参考文献（2）

『IDE:現代の高等教育』（IDE大学協会誌）より

佐々木雄太（名古屋経済大学学長・中央教育審議会大学分科会
大学教育部会長／国際政治）
543号「主体的な学びの回復のために」p.11-16
「特集:主体的な学習」2012年8-9月号
井下　理
539号「新入生の適応と適応支援」
特集:高校と大学の間，p.45-49（2012）
530号「体験型学習の意義と課題」
特集:体験型学習の可能性，p.6-13（2011）

(C) 2013 Osamu Inoshita

参考文献（3）

『IDE:現代の高等教育』（IDE大学協会誌）
井下　理
515号「『学習させる大学』と教員の役割」
特集:「学習させる」大学，p.31-38（2009）
498号「大学教育における正課外活動」
特集:現代の学生像と大学教育，p.32-37（2008）

『アルカディア学報』390号「学習支援型図書館」（2009）

「学士課程の充実へ向けて」『私立大学マネジメント』（2009）
東北大学高等教育開発推進センター編『学生による授業評価の現在』
p.65-106、東北大学出版会（2010）

(C) 2013 Osamu Inoshita

（４）秋実施：学生参加のグループ討議

井下先生の講話の後、春同様に、アクティブラーニングをどのように展開していくかを

深めるべく、グループ討議を実施した。今回は新たな試みとして各グループに学生を配置し、学生からの意見をヒアリングする場を設けた。
普段なかなか聞くことのできない学生の生の声を聞くことができ、今後の授業の参考になったとの意見が多くあがった。
学生からの意見を聞くことで、対話型の授業において学生は教員との関係よりも学生同士の関係を過剰に意識していることや、グループワークでの学生間におけるモチベーションの差は教員が思っている以上に学生が感じていることが新たな気付きとしてあった。
　学生との意見交換から、今後の授業において、授業の開始時に授業の全体像を明確に示すこと、重要なポイントを抽出すること、授業をするうえでの環境設計をしっかりすることなどの重要性があげられた。

（５）今後の課題

　主体的な学びを育むためには、やはり環境設定を整えることが重要であること、また具体的な段階的目標を設定し、授業で実際にどう活用していくか、を具体的な施策として教員間で共有すること、アクティブラーニングを通して育てたい学生像をクリアにしていくことが必要であろう
　また、今回の井下理氏のお話をうけ、アクティブラーニングと括られる中にもさまざまな手法があると改めて理解することができた。そのため、手法ばかりに固執をするのではなく、各教員の講義に合う手法を模索し取り込んでいくことが必要であり、またそれを何度となく繰り返し挑戦することで自分なりのアクティブラーニングを作っていくことが求められる
　そして、学生を交えてのグループ討議を実施したことにより、教員の視点と学生の視点の違いを明確にすることができた。今後は、さらに学生を交えた FD 活動が充実するように、学生 FD 委員会（仮称）を立ち上げることを検討していく。

5.授業評価アンケート

資料１：授業アンケート実施のお願い・実施要領（平成 25 年度春学期）
資料２：授業アンケート実施のお願い・実施要領（平成 25 年度秋学期）
資料３：授業に関するアンケート（マークシート）
資料４：授業に関するアンケート（自由記述）